

# 2022年2月8日掲載 輸送経済新聞

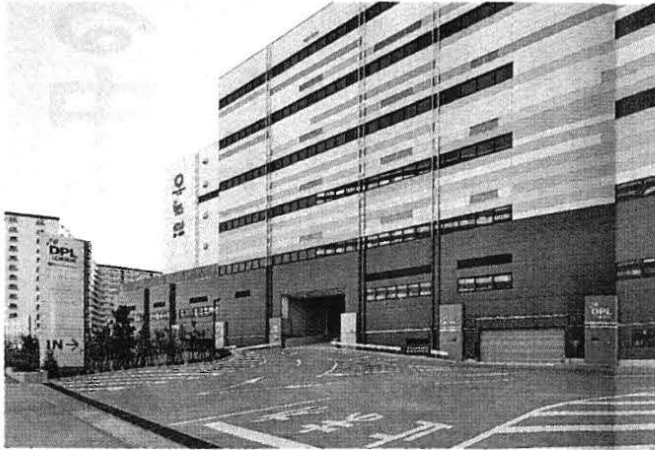
第一貨物

## 東京支店をしゅん工

### 首都圏旗艦店を一新

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）はこのほど、東京都江東区で東京支店をしゅん工させた。首都圏の旗艦拠点を一新し、さらなる成長の礎とする。

（矢田 健一郎）



大和ハウス工業の物流施設内に区分所有施設として運用する

東京、埼玉での社宅建て替え、整備工場の統合移転、山形支店の統合移転を合わせ、総額280億円を投じた「東京プロジェクト」の総仕上げとなる同社最大の事業所が完成した。14日に営業を開始する。

所在地は江東区塩浜1ノ2ノ2。大和ハウス工業が開発した「DPL江東深川」内。同施設は敷地面積約3万6900平方メートル、高強度・高耐久のプレキャスト・プレストレストコンクリート造。一部鉄骨造7階建て、延べ床面積約13万8200平方メートル。第一貨物は2階部分を区分所有し、占有部分は約1万8500平方メートル。大部分がインドアスペースで雨風を回避。免震構造で風水害にも強く、サービス向上につながる。

都心へのきめ細かいスピード配送、都心からの全国発送、ロット貨物を含む貸し切り輸送、チャーター便、ドレージを含む輸出入に対応する。江東区東雲にあった旧支店は建築から52年が経過し、老朽化対策が求められていた。隣接していた旧社宅と共に高度利用が可能な物件を売却し、東京プロジェクト実現の資金とした。

全社一丸で投資効果を発揮

営業を開始した。米田社長は「新しい東京支店は、当社の旗艦店として従来と遜色ない業容で近隣に移転でき、風水害に強いなど顧客へのアピール点も多い。先駆けて始動した山形支店、埼玉整備工場などを旗艦店としてけん引し、全社員一丸となって、東京プロジェクトの大型投資の効果を早期に発揮していきたい」と話す。